

本書「生物学と医学のための物理学 第4版」は、2012年にアカデミックプレス (Academic Press) から刊行されたポール・ダヴィドヴィツ (Paul Davidovits) 著「Physics in Biology and Medicine, Fourth Edition」の全訳である。

ダヴィドヴィツ博士は現在、ボストンカレッジ・化学科・物理化学/理論化学教室の教授で、エアロゾルの物理化学を専門としている。博士は1935年生まれで、1964年に米国コロンビア大学で博士号を取得した。彼の活動は専門を超えた広い範囲に亘っており、特に教育啓蒙に非凡な才能を發揮してきた。著者紹介にあるように、2000年には共焦点顕微鏡に関するセミナー活動で米国光学会から R. W. Wood 賞、2003年には本書第2版が Alfa Sigma Nu Book 自然科学部門賞を受賞している。

翻訳していて感心したのは、専門外の生物学や医学の知識と理解が半端ではなく、比較的身近な生理学的現象を背景も含めて解説したうえで、ごく簡単な物理学と数学を使って定量的にしかも生理学的に意味のわかる形で説明していることである。その手腕は並大抵ではない。おそらく、専門外の分野だからこそわかりやすく書けたのではないかと思われる。著者自身が納得しながら、楽しんで書いていることが伝わってくるのである。これならば、中学、高校レベルの経験的知識だけでも充分に理解できると思われた。

翻訳のきっかけは、共立出版の信沢孝一氏からの翻訳価値の評価依頼であった。悪い予感を覚えながらも、その明快で論理的な内容と、我が国には類書がないことなどから、訳すべき価値あり、と返答した。悪い予感が当たって、ほどなく翻訳依頼の打診がやってきた。過去の経験から、翻訳は自執筆よりもはるかに気を遣い、疲れる作業であることはわかっていたので、相当な躊躇があった。それでも、こんな本があれば、生命科学を志す若い人たちが物理学の面白さや重要性に気づいてくれるかもしれない、またこの内容は教養としてぜひ身につけて欲しい、という気持ちが勝って、引き受けすることになった。

単独で翻訳するのが筋とは思ったが、相当な時間がかかることが予想され、時宜を逸することを恐れた。幸い私の頭の中に、それぞれの章を担当するにふさわしい友人、知人の顔が浮かんできたので、ご迷惑を顧みず、分担訳で進めること

に決めた。とてもありがたいことにすべての候補者の方々から賛意を得て、刊行の運びとなった。中でも吉村建二郎氏には多大な貢献をいただいた。しばらく科学文献の翻訳に携わった経験もあって、分担章はもとより、用語統一、一次草稿のチェックなど、翻訳作業の要ともなる作業を迅速にこなしていただいた。監訳者曾我部は、そのチェック原稿を再チェックし、両者の協議で初稿を仕上げ、さらに分担翻訳者の校正を受けて、最終的に曾我部が再チェックした。

翻訳には最善を尽くしたが、それでもなお誤訳や不明瞭な訳が残っているかもしれない。もしそうであるとしたら、その最終責任は監訳者にある。気づかれた読者はぜひ出版社を通してご教示をお願いしたい。

末筆ながら、お忙しい中、ご協力頂いた訳者の皆様、また、表記統一や編集作業を通して終止助力を惜しまれなかつた共立出版の信沢孝一氏に心中より御礼申し上げます。

平成 26 年 12 月吉日

曾我部正博